

研究課題： 超早産児（在胎 22 週～25 週）における生後早期の不感蒸泄量の検討

1. 研究の目的

超早産児では不感蒸泄量が多いとされています。特に在胎 22 週～25 週は生後早期には脳室内出血や動脈管開存のリスクがあり、慎重な輸液管理が必要であり、不感蒸泄量が重要となります。最近では保育器による加湿の精度が上がり、以前からいわれている不感蒸泄量よりも少なくなっている可能性があります。そこで現在の保育器管理での超早産児（特に在胎 22 週～25 週）の不感蒸泄量を算出します。

研究の方法

2017 年 1 月から 2023 年 8 月までの期間に当センター内で出生された在胎 22 週～25 週の患者様が対象となります。

後方視的に診療録から体重推移、水分出納を調べます。出生時の体重と生後 72 時間を超えてから測定した 2 回目の体重を用いて在胎週数ごとの日齢 3～4 までの不感蒸泄量を算出します。不感蒸泄量＝水分投与量－水分排泄量－（体重増加量）として簡易的に算出します。

2. 研究期間

2023 年 11 月（倫理委員会で承認を得られた日）から 2024 年 11 月まで。

3. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録に記載されている個人情報を含まない患者情報、検査データ、治療内容などを調べてまとめます。

4. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究に関しては外部への資料や情報の提供は行いません。この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

5. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター
研究責任者：新生児科 医員 森 未奈子
研究分担者：新生児科 科長 清水正樹

6. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2024年4月30日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）